

任意接種ワクチンの小児（15歳未満）への接種

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

2015年11月作成

2016年10月改訂

2017年9月改訂

基礎疾患の有無や海外渡航などの状況により、特に接種が奨められる場合のある任意接種ワクチンの接種推奨すべき対象と接種回数を以下に示します。

なお、各ワクチンともに、接種不相当者に該当する者は対象から除きます。

また、健康保険適用に関しては、別途記載します。

対象となるワクチン

	ワクチン名	接種適応年齢	接種適応外の年齢	推奨接種対象者と接種回数
任意接種	23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン (PPSV23)	2歳以上	2歳未満	<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>2歳以上の全ての肺炎球菌感染症ハイリスク患者（☆）</p> <p>☆慢性心疾患（チアノーゼ性心疾患、慢性心不全）・慢性肺疾患（高用量の経口ステロイド投与を受けている気管支喘息含む）、糖尿病、髄液漏、人工内耳、鎌状赤血球症などの異常ヘモグロビン症、脾機能低下症、HIV感染症、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、免疫抑制療法や放射線治療を受けている者（悪性腫瘍性疾患、白血病、リンパ腫、固形腫瘍）、原発性免疫不全症</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>最後の PCV13 接種後 8 週間以上あけて PPSV23 1 回接種。 5 年後に PPSV23 追加接種を検討。</p> <p>註 1：PPSV23 既接種者で PCV13 未接種の場合</p> <p>最後の PPSV23 接種後 12 か月以上あけて PCV13 を 1 回接種。（PPSV23 については最後の接種から 5 年以上経過していれば再接種可能。）</p>

				<p>註 2:2～4 歳児に対する PCV13 は定期接種。          註 3:5 歳児に対する PCV13 接種は任意接種となるが、状況により特例措置により定期接種として接種することが可能。</p>
4 価髄膜炎菌ワクチン（ジフテリアトキソイド結合体）（MCV-D） *	2 歳以上 55 歳以下	2 歳未満		<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>① 髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する 2 歳以上の者</p> <p>② 9 か月齢以上のハイリスク患者（補体欠損症・無脾症もしくは脾臓機能不全、HIV 感染症）</p> <p>③ 9 か月齢以上のソリリス治療患者（発作性夜間へモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症候群）</p> <p>④ 学校の寮などで集団生活を送る者</p> <p><u>接種回数</u> 1 回接種。</p> <p>註 1：添付文書上は、接種上の注意として「2 歳未満の小児等に対する安全性及び有効性は確立していない」との記載あり</p>
A 型肝炎ワクチン	なし	なし		<p><u>推奨接種対象者</u> A 型肝炎流行地域へ渡航する 1 歳以上の者（滞在期間にかかわらず）</p> <p><u>接種回数</u> 2～4 週間隔で 2 回接種（初回接種）、初回接種後 24 週をあけて追加接種 1 回</p>
狂犬病ワクチン	なし	なし		<p><u>推奨接種対象者</u> 狂犬病が疑われる動物による咬傷などの曝露を海外で受けた者（曝露後免疫）</p> <p><u>接種回数</u> 0、3、7、14、30、90 日の合計 6 回</p>
黄熱ワクチン	9 か月以上	9 か月未満		<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>① 国際保健規則（International Health Regulation, IHR）にもとづいて、入国（トランジットを含む）に際して接種が要求される国へ渡航する月齢 9 か月以上</p>

				<p>の者</p> <p>② 黄熱流行地域へ渡航する月齢9か月以上の者（滞在期間にかかわらず）</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>1回接種。</p>
弱毒生おたふくかぜワクチン	生後12月以上のおたふくかぜ既往歴のない者 (生後24～60月の間に接種することが望ましい)	1歳未満		<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>1歳以上の全てのムンプス未罹患小児。</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>2回接種。</p> <p>註1：標準的な接種時期</p> <p>1回目：生後12～24か月</p> <p>2回目：小学校入学前1年間</p>
季節性インフルエンザワクチン	6か月以上（一部は1歳以上）	6か月未満		<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>全ての6か月以上の小児。</p> <p><u>接種回数</u></p> <p>毎年接種。(6か月～12歳 2回/年、13歳以上 1回/年)</p>
ロタウイルスワクチン	1価ワクチン：6週～24週 5価ワクチン：6週～32週 (接種適応外の年齢の児には接種を行わない。初回接種は生後14週6日までにを行うことが推奨される。)	1価ワクチン：25週以上 5価ワクチン：33週以上		<p><u>推奨接種対象者</u></p> <p>接種適応年齢の全ての小児。</p>

\*：MCV-DとPCV13の両方の接種が必要な場合、同時接種は、免疫原性に影響を与える可能性がある。

## 健康保険適用のあるワクチン

### 1. 破傷風トキソイド

- ① 外傷後の破傷風発症予防で使用した場合

### 2. 狂犬病ワクチン

- ① 曝露後（咬傷後）の発症予防で使用した場合

### 3. 4価髄膜炎菌ワクチン（ジフテリアトキソイド結合体）

- ① エクリズマブ投与患者に使用する場合

### 4. 23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン

- ① 「2歳以上の脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発症予防」の目的で使用した場合